

議 事 録

会議名		釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会	
事務局		釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時		令和元年 10 月 25 日（金） 15：00～17：00	
開催場所		釧路市役所防災庁舎 5 階 会議室 A	
出席者	委 員	博田部会長（釧路市社会福祉協議会） 西川副部会長（あしすと） 大峠（そよかぜ） 北澤・八巻（はねときりん） 西崎（レンリソウ） 池田（ひかり自立支援センター） 川口・福井（さわらび学園） 澤田（おんべつ学園） 高橋（鶴が丘学園） 佐藤（それいゆ） 高橋（サハス） 竹川（プルミエ） 中村（いずみ） 柏木（アルケー） 南（中標津養護学校） 議事録：正田（ドナルド）	井上部会長（あゆみ） 長谷地（音別町行政センター保険福祉課） 長崎（ハート釧路） 平野（えくぼ） 伊藤（すてっぷ） 佐藤（丹頂の園） 上野（大きな木） 高野・松田（ぼこあぼこ） 小玉（はばたき） 新岡・光森（プリズム） 小林・藤山（くしろ地域生活支援センター） 赤田（アットホームぴちかーと） 遠藤（あおぞら） 追分・工藤（釧路養護学校） 原田・齋藤（鶴野支援学校）
	その他	北海道教育大学教育学部釧路校 准教授：戸田 竜也 氏	
	傍聴者	なし	
	事務局	島・鈴木・高杉（釧路市役所障がい福祉課） 近藤・脇田（釧路市障がい者基幹相談支援センター）	
会議次第		1. 開会 2. 挨拶 釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会長 博田 秀治 3. 研修会 (1) 講演 『知的障がいや発達障がいの特性と関わり方について』 講師：北海道教育大学教育学部釧路校 准教授 戸田 竜也 氏 (2) パネルディスカッション ファシリテーター兼助言者：戸田 竜也 氏 パネリスト：博田部会長、井上副部会長、西川副部会長 (3) 質疑応答 (4) 振り返り	

敬称略

出席者：38名

議 事 内 容

	4. 閉会
--	-------

【研修会】

(1) 講演

研修会のテーマ：『知的障がいや発達障がいの特性と関わり方について』

講師：北海道教育大学教育学部釧路校 准教授 戸田 竜也 氏

内容：別紙資料参照

(2) パネルディスカッション（事前アンケートをもとに進行）

ファシリテーター兼助言者：戸田 竜也 氏

パネリスト：博田部会長、井上副部会長、西川副部会長

○博田部会長（不適応行動への対応について）

- ・他利用者に迷惑になるような行動が見られた際や、パニック状態になっている時、こだわりが強く支援に対して反抗を示しているときの、利用者への対応方法は適切なのか、時として虐待と捉えられないか不安に思っている方が多いようである。
- ・事後対応が適切かどうかも大切だが、どうしたらパニックが起らないかといった予防的対応の視点のお話を伺いたい。

○戸田氏

- ・講義資料にあるように「冰山モデルで考え活用する」ことが重要である。
- ・言動・現象には利用者なりの理由があり、本人の特性と本人の環境・状況が相互に作用し、現象の要因となっている。場合によってはネガティブな現象でも、その人ともっと関わりたいという理由が背景にあるのではないかと。
- ・現象の背景にある理由に着目すること、理由を知ることが、予防につながるのではないかと。

○井上副部会長（こだわりについて）

- ・他利用者の髪の毛の匂いを嗅いだり、肩を触ったりすることがある。
- ・集団生活においてお風呂の日が変更になったりした場合に、本人のルールへのこだわりが強く出してしまう。

○戸田氏

議 事 内 容

- ・匂いを嗅ぐなどの行動について

⇒色々な試行錯誤をしてみて働きかけをしながら、感覚的なものを満たすことができることもある。その場面のこだわりだけに注目するのではなく、他の生活場面の見直しなどによって安心感や居場所を確保することで、直接的ではないが結果として解消していけるような方策も模索していかななくてはいけないのではないか

- ・日程変更について

⇒支援者が、これが良いのではないかと試してみて反応をみて、それでもパニックになってしまうのであれば、その方の状態をみながらどんな風に修正をかけて試すのか、というプロセスが必要ではないか。

○西川副部長

- ・温度と湿度の感覚など、感覚過敏について聞きたい

○戸田氏

- ・あまり大きな問題になりづらいが、過敏だけではなく鈍麻も障がいの特性に含まれる。感覚を感じられない困難さがあることが生活にどのような影響があるのか考える必要がある。
- ・成長に応じて変わっていくものもある。
- ・不快な刺激について、本人と話しながら意味を考える必要がある。

○博田部長

- ・いろいろな支援の方法があるので、個別支援ということをおきながら、集団でのサービス提供ということも考えていかなければならないのではないか

○戸田氏

- ・こういう場合はこうしたらよいという Q&A 方式があったらよいが、現場の支援ではうまくいかない場合がある。ソーシャルスキルトレーニングでうまくいく方もいれば、うまくいかず二次障がいの的になってしまう方もいる。一般に流布されている手法や技法も人に合わせて考えていかなければならない。

(3) 質疑応答 特に無し

(4) 振り返り

- ・各グループに分かれて、研修内容の感想や日頃の課題等を共有している(発表なし)

【そのほか】

- ・別紙のとおり研修会についてのアンケートを行った。結果については事務局(基幹センター)に

議 事 内 容

て後日集約する。

以上